地域性を反映できる放課後居場所点検評価指標の検討

○北原靖子¹・蓮見元子¹・川嶋健太郎²・浅井義弘¹

(¹川村学園女子大学・²尚絅大学短期大学部)

キーワード：点検評価指標・放課後居場所・地域性

Examination of the Check Evaluation Index of After school Room Reflecting Regionality

Yasuko KITAHARA¹, Motoko HASUMI¹ and Kentaro KAWASHIMA² and Yoshihiro ASAI¹

(¹Kawamura-Gakuen Woman's Univ., Junior college department of Kounan Univ.,)

Key Words: Check Evaluation Index, After school Room, Regionality

目 的

放課後子ども教室は、その地域・教室にふさわしい点検評価指標を定めるのが課題とされる。そこで蓮見・北原・川嶋・浅井(2010)は、関係者各位からの面接調査結果をふまえて、各自治体が事業目標に応じて適当な関係者に適当な項目を選択できるアンケート項目一覧を提供した。

しかしながら、放課後子ども教室事業目標は多岐にわたり競合矛盾しあう関係を含んでいるため、「目標に応じて具体的な点検項目を選択する」作業こそが、実は点検評価上最も重要で困難を伴う。教室スタッフの語りも、「子どもの安心」「子どもの満足」「子どもの学習」など望ましいが一方を実現すると他方が阻害される諸目標から、放課後生活の質を向上させる落とし所を模索しているのが伺われた。この語りは、個人におけるQOL(生活の質)模索ときわめてよく近似していることから、既存QoL尺度であるSEIQoL(0'Boyle, 1994, 大生, 2009)の概念と指標計上手続きは、放課後居場所の点検評価上にも参考となると期待される。

そこで本調査は、点検評価各領域の実現度評価に加えて領域間の重要度評価を求め、実現度×重要度をもって放課後点検評価の指標とする手続きを試行し、その適用性を検討した。

方 法

対象 関東において学童保育との一体化運営を行っている1区1市内計33放課後子ども教室マネージャー

材料 蓮見ら(2010)の質問項目を元に、評価領域を「安全安心な子育て環境の整備(安全)」と「子どもの健やかな成長(成長)」の2領域として整理し、各々の実現度と共に領域間の重要度を尋ねる質問項目を新規に追加したアンケートを作成した(表1)。

手続き 郵送にて配布・回収した(2010年)。

表1 実現度・重要度に関する質問紙構成

Q(8) 実現度(安全15項目・各5段階評価) 地域子育ての「安全・安心」の観点から、あなたのいる放課後子ども教室は、以下についてどれくらい実現できていると思いますか？
・怪我や病気になった場合に、すぐ対処する大人がいる(1) ・児童は安心してくつろげている(6) ・ボランティアを含め、そこに关わる大人たちは、やりがいや充実感を感じている(9) ・放課後の居場所を提供し、保護者の就労や育児を助けている(10)
Q(11) 実現度(成長15項目・各5段階評価) 児童の「健やかな活動」の観点から、あなたのいる子ども教室は、以下についてどれくらい実現できていると思いますか？
・どんな遊びや活動をするのか、児童が自由に決められる(2)

- ・児童は、来るのが楽しそうである(6)
- ・他学年の児童との交流が充実している(9)
- ・外で体を動かす遊びをしている(14)

Q(14) 重要度(9項目中1選択)

校区ニーズや活動実態から総合的に判断して、あなたが関わる放課後子ども教室の「安全・安心」と「健やかな活動」の重要度は、どれくらいの比重と感じますか？全体を10として振り分けるとして、最も当てはまるものを1つ選んでください

- ・安心1・活動9
- ・安心2・活動8 ……

()は掲載項目番号

結 果

領域別評定 領域別総計としては、「安全」平均58.8(SD5.49)が「成長」53.0(10.15)を有意に上回った($t(29)=3.147, p<.01$)。領域得点間の相関は有意ではなかった($r=.28, p>.1$)。

領域間重要度評定 「安全5・成長5」と領域間の重要性を同等とした評価者数は14(46.7%)であった。バランスが異なる場合の内訳は、安全重視が13(44.3%)、成長重視が3(10.0%)と、多くは「安全」が重要と位置づけていた。

実現度単純合計(従来指標)と実現×重要度(テスト指標)比較 重要度による重み付けを加味して算出したテスト指標結果は、平均76.00(SD6.64)であった。各領域およびその単純合計である従来指標との相関はいずれも.8以上の高い正の相関を示したが、順位付けとしては旧指標と半数15が入れ替わり、実現度の高い「安全」が「成長」より重要と位置づけた教室は順位を上げることとなった。

考 察

テスト指標を用いることによって、重要度評定を通して各地域各教室に応じた目標が明示されると共に、最高を100とした共通の数値表現が得られ、各地域性を活かした相互比較が可能となる。参考としたSEIQoL本来の利用法に照らせば、点検評価を通して目標分析が円滑に進み、スタッフがすることやりたいことを整理したり、関係者相互の認識共有が進んだりすることが、もっとも期待されよう。

引用文献

- 蓮見元子・北原靖子・川嶋健太郎・浅井義弘(2010)放課後子どもプランの実際の運営についての自治体児童関連サービスバブルでの評価指標作成等に関する研究—子ども・保護者・教職員・ボランティアへのアンケート調査に基づいて—こども未来財団児童関連サービス調査研究等事業報告書
- 大生定義(2009)SEIQoL:患者の主観的QOLのための評価法(前編).看護学雑誌, 73(1), 42-47.